

実習指導者が考える 「臨地実習で学生に学んでほしいことは何か」

松本 幸子・吉田恵理子
高比良祥子・片穂野邦子

Clinical nurse leaders' perception what they want
the students to learn by the nursing practice

Sachiko MATSUMOTO, Eriko YOSHIDA
Sachiko TAKAHIRA and Kuniko KATAHONO

要 約

看護基礎教育に携わる教員や実習指導者にとって、臨地実習がいかに効果的な学習の場となり得るかは大きな課題である。平成12年度長崎県実習指導者講習会で受講者が考える「臨地実習で学生に学んでほしいことは何か」について演習を行った。本研究では、その内容を帰納的方法により分析した結果、12のカテゴリーとして「対象の全人的理解」「個別的な看護過程の展開」「対象のセルフケア能力を高める援助」「コミュニケーション技術」「原理・原則に基づいた看護技術」「知識と技術の統合」「医療チームにおける看護職の役割」「看護専門職としての心構え」「領域や施設の特性の理解」「人間観、死生観、看護観」「看護の喜び」「実習目標の達成と成長」と、36のサブカテゴリーが抽出された。これらの結果は、今後教員として実習指導者との連携を考える資料として役立てたい。

キーワード：臨地実習、実習指導者、学生、教材、学習

I. はじめに

看護基礎教育における臨地実習が、いかに効果的な学習の場となり得るかは、実習指導に関わる教員や実習施設側指導者にとっての大きな課題である。看護サービスの場で学習が行われる意味は、学生が患者の看護上の必要性を見出し、それに応じた援助活動をその時々判断し、自分の持つ知識や技術を統合し発見学習していく過程で、問題解決の諸能力が開発されていくことである。平成12年度長崎県実習指導者講習会において「実習指導の原理」の講義を担当し、指導の3要素「学生観」「指導観」「教材観」をとりあげる中、実習教育における教材をどのように考えるかに関して、実習指導者の考える「臨地実習で学生に学んでほしいことは何か」についてグループ演習を行った。

本研究では、教員として実習指導者との連携に

役立てるために、実習指導者の考える「臨地実習で学生に学んでほしいことは何か」の内容を明らかにすることを目的としている。

II. 本講義の位置づけと演習の目的

実習指導者講習会の科目構成は、大きくは以下の3項目に分かれている。

- 1) 「教育及び看護に関する科目」として、教育原理、教育心理、教育方法、教育評価、看護論、看護教育課程が合計114時間
- 2) 「実習指導に関する科目」として、実習指導の原理、実習指導の評価、実習指導の実際が合計105時間
- 3) 実習指導者の養成に必要と思われる教育内容として特別講義等が21時間

科目「実習指導の原理」のねらいは、『実習指

導の基本と実習指導者のあり方について理解すること』であり、内容は臨地実習の意義と目的、授業としての実習、学習者としての学生、実習指導

の構造、指導者の役割、臨地実習の進め方、実習指導計画・指導案作成の意義と立案方法等が含まれ資料1に示した。

資料1 本講義の位置づけと内容

「実習指導の原理」18時間	
ねらい：実習指導の基本と実習指導のあり方について理解する。 目標：実習指導を意図的、計画的に実践することの必要性と方法がわかる。 (長崎県実習指導者講習会カリキュラムより)	
授業の組み立て	
1. 臨地実習の意義と目的	
1) 改正カリキュラムにおける実習の位置づけ	
2) 実習の意義	
3) 看護基礎教育における実習教育の目的	
2. 授業としての実習	
3. 学習者としての学生	学生観 (GW)
4. 実習指導の構造	
5. 指導者の役割	指導観 (GW)
1) 実習指導者と教員の役割	
2) 実習指導体制	
6. 臨地実習の進め方	
1) 看護教育課程における実習の構成と各実習の位置づけ	
2) 実習計画と実習準備	教材観 (GW)
3) 実習指導の実際	
4) 実習評価	
7. 臨地実習指導計画・指導案の作成	
1) 意義	
2) 立案方法 (指導案の構成要素、手順)	
* 本演習は、教材観のグループワークとして行った	

今回の演習は、「実習指導の原理」の中で教材観を考えるために行ったものである。方法は49名の受講生を7人のグループ単位として7グループを編成し、一人6枚以内の「臨地実習で学生に学んでほしいことは何か」のラベルを記入した。それらを各グループでKJ法により分析し構造化を行い、全体で発表討議を、180分で実施した。

この演習のねらいは、実習指導者が複雑で流動的な臨床の場で何を学生に考えさせ学ばせたいのかを明確にしておくことが、指導案作成時の教材化の過程で重要と考えたからである。ともすれば臨床指導者や教員に共通する「あれもこれも学ばせたい」という役割への熱心さが、時に学生を追いつめることになるという筆者の経験からも、学習内容の精選は指導案作りに必要なものである。

演習での「臨地実習で学生に学んでほしいことは何か」の構造図は、それぞれのグループにより特徴があるが、全体に共通するところも多くみられた。7グループ中2つのグループの演習での構

造図を資料2と資料3に示した。

Ⅲ. 研究の対象と方法

対象は平成12年12月11日から平成13年2月20日まで開催された平成12年度長崎県実習指導者講習会の受講者が、演習で記入した「臨地実習で学生に学んでほしいことは何か」の元ラベル276枚である。方法は元ラベル276枚を、4人の研究者で帰納的方法により分析を行った。各ラベルの記載内容は受講者個人を特定されるものではなく、分析の過程で意味の読み取りが困難なラベル6枚は分析対象から除外した。

受講者へは、演習では各グループ単位の内容の発表・討議であったため、できれば受講者全体ではどのような内容になるかを分析し、その結果を受講者へ報告したいと考えていることを授業の中で説明した。また、本講習会に関わる関係機関の了解を得た。

IV. 結果および考察

1. 受講者の背景

受講者は長崎県内の保健婦、助産婦、看護婦または准看護婦養成所の実習施設での指導者、また将来実習指導者の予定にある者49名である。臨床経験年数は3年～30年、実習指導経験年数は0年～16年であり、受講者の実習担当看護婦養成所の種類は高校衛生看護科、高校衛生看護専攻科、看護専門学校准看護婦課程、看護専門学校2年専門課程、3年課程看護婦養成所、4年制大学看護学科であった。このように受講者の背景は臨床経験年数や実習指導経験年数、実習指導担当養成所の種類も様々であり、受講者が考える「臨地実習で学生に学んでほしいことは何か」のラベルにも多様な内容が見られた。

2. 「臨地実習で学生に学んでほしいものは何か」の内容と授業としての臨地実習

受講者の考える臨地実習で学生に学んでほしい内容は、276枚のラベルから、表1に示すように12のカテゴリーと36のサブカテゴリーに分類された。

12のカテゴリーには、「対象の全人的理解」「個別的な看護過程の展開」「対象のセルフケア能力を高める援助」「コミュニケーション技術」「原理・原則に基づいた看護技術」「知識と技術の統合」「医療チームにおける看護職の役割」「看護職としての心構え」「領域や施設の特性の理解」「人間観、死生観、看護観」「看護の喜び」「実習目標の達成と成長」があがった。

12のカテゴリーについて、受講者の学んでほしい内容を表現すると、以下のように考えられる。看護では、看護の「対象を理解」し、その健康問題の解決のために「個別的な看護過程の展開」をする。そこには、対象が自律した個人として「セルフケア能力を高める援助」をする姿勢が重要である。一人一人個性を持つ対象との関わりにおいては、看護職としての「コミュニケーション技術」の獲得は基本的技術として重要である。また、実習では既習の「知識と技術の統合」により、原則から個への適応の過程を学ぶ。さらに、実習の行われている場は、現実に医療やケアが行われている場であり、看護活動の目的や価値を確認しながら「医療チームにおける看護の役割」を学ぶ。そ

れらを通して「看護専門職としての心構え」についても学んでほしい。また、それぞれの看護学実習の行われる場にはちがいがあり、「領域や施設の特性についても理解」する。学生には、多くの人々との出会いや実習経験を通して、「人間観、死生観、看護観」を深化させ、「看護の喜び」や充実感を実感してほしい。このような臨地実習を通して、学生が「実習目標の達成と（人間的）成長」をすることを期待している。

「看護学実習」という場合の用語の定義を、杉森¹⁾は「あらゆる看護の場において、各看護学の講義、演習により得た科学的知識、技術を実際の患者、クライアントを対象に実践し、既習の理論、知識、技術を統合、深化、検証するとともに、看護の社会的価値を顕彰する授業である」とする。その場合の教材は、学習内容を習得していくための「学習活動の直接の対象となる具体的・特殊な事実、事件、現象」を指す。よく使われる「患者が教材である」という表現に対して、それは省略されて表現される場合が多く、「患者もしくはクライアントが提示した現象」が教材であることの意味を強調している。

看護実習における教材といわれるものは、患者、クライアントの提示する看護現象のみならず、看護職者が患者・クライアントに提供する看護実践も教材になることを杉森¹⁾は学生のケア行動に関する研究を通して明らかにしている。これらの指摘のように、実習指導にあたる教員、実習指導者が何を教材として意識するかは重要である。12のカテゴリーに表現されるような学習内容を臨床で起こっている患者の提示する看護現象と、提供する看護実践場面の2つの側面からの教材化が実習の中で意識されなければならない。

3. 実習指導者が学んでほしい内容の特徴

受講者の考える「臨地実習で学生に学んでほしいものは何か」の12のカテゴリーをラベル数の多さから見ていくと、「対象の理解」が35、「コミュニケーション技術」が40、「原理・原則に基づいた看護技術」が31、「実習目標の達成と成長」が30であり、これら4つのカテゴリーでラベル数が30を越えている。受講者の多くが実習指導上重要と考えている4つのカテゴリーの内容をサブカテゴリーからその特徴をあげていくと、「対象の理解」では、サブカテゴリーとして、『対象を疾患

表1 「臨地実習で学生に学んでほしいことは何か」の内容

カテゴリー	サブカテゴリー	件数
対象の全人的理解	・対象を疾患とともに生活者として、全人的に理解する ・対象の人生観、価値観を尊重すること ・各年齢層の生き方、考え方の違いを知ったうえでの関わり方	18
		12
		5
	計35	
個別的な看護過程の展開	・基本を理解し、症状に即した個別的援助 ・対象に応じた看護過程の展開	15
		10
	計25	
対象のセルフケア能力を高める援助	・患者のできる場所、できないところを判断し、自分でできるように援助 ・時間がかかっても、患者を待つ(見守る)大切さ	3
		2
	計5	
コミュニケーション技術	・対象に応じたコミュニケーション技術 ・患者および患者を取り巻く人々との関わりから信頼関係を築く大切さ ・患者への言葉かけ、反応から気持ちや心の動きを理解する ・患者・家族との話の中から、看護に必要な情報を収集する ・ケアを行いながら自分自身も心を開くことで相手に気持ちは通じる	13
		11
		9
		4
		3
計40		
原理・原則に基づいた看護技術	・原理・原則に基づく看護技術を身につけた援助 ・観察の方法や必要性、重要性 ・報告、記録の重要性を知り、正しく行う方法	25
		3
		3
	計31	
知識と技術の統合	・学習してきた知識を実際の場面で体験し、体験と知識を結びつける ・専門的知識に基づく視点をもった判断力、応用力 ・専門的な各種治療法、検査の目的、援助方法の理解	10
		5
		4
	計19	
医療チームにおける看護職の役割	・医療チームの中での他職種との協力体制や看護職の役割 ・看護はチームで継続して行い学生もチームの一員であること	9
		8
	計17	
看護専門職としての心構え	・看護職の患者に与える影響の大きさ、患者を受け持つ責任の重さ ・患者を受容し、自己をコントロールし援助すること ・職業人としての態度やマナーを身につける ・現場の厳しさを理解し強い精神力を養うこと	9
		6
		4
		2
計21		
領域や施設の特性の理解	・施設、領域の特性 ・精神科を恐いイメージでとらえない	15
		4
	計19	
人間観、死生観、看護観	・体験を通して感性を磨き、人間観、死生観、看護観を深める ・生命の尊厳 ・看護を選んだことの再確認	7
		2
		1
	計10	
看護の喜び	・看護することの喜びや充実感を味わうこと ・看護することの喜びの実感	13
		11
	計24	
実習目標の達成と成長	・実習を通して自己の行動を振り返り、評価することで成長すること ・自分の意見や疑問を表現し、解決する方法 ・達成可能な課題、目標、計画を持ち実習すること ・指導者やグループ実習を通しての学びを共有すること ・対象および社会が抱える(保健・医療・福祉の)問題を自分自身のこととして考える	11
		8
		7
		2
		2
	計30	
合計	276	

とともに生活者として、全人的に理解する』『対象の人生観、価値観を尊重する』が多くあがっている。それらは、対象を疾患のみから捉えるのではなく、健康障害を持ちながら生活をする人としての生活モデルを意識するものである。

「コミュニケーション技術」では、『対象に応じ

たコミュニケーション技術』『患者および患者を取り巻く人々との関わりから信頼関係を築く大切さ』が多い。看護は人を対象に関わりを持つものであり、学生として対象のニーズを把握するための基本的な人間関係を取り結ぶ技術の必要性を学んでほしいというものである。

「原理・原則に基づいた看護技術」では、『原理・原則に基づく看護技術を身につけた援助』が25と最多である。学生には学内で学んだ看護技術の原理・原則を大切にしながら個への適応を学んでほしい。そのことへの期待が大きいことも実習指導者の特徴である。

「実習目標の達成と成長」には、『実習を通して自己の行動を振り返り、評価することで成長する』『自分の意見や疑問を表現し、解決する方法』を学んでほしいなどがある。このことは、実習を通して自分の考えや疑問を明らかにしその解決方法を学ぶことで、学生の学習目標が達成され学生が自身の成長を実感できることを期待しているといえる。

12のカテゴリーのうち、ラベル数は少ないが学生に学んでほしいものとして、「対象のセルフケア能力を高める援助」が5であり、それは慢性疾患に特徴づけられる一つのケアの方向性を示すものであろう。また、「人間観、死生観、看護観」は10で、サブカテゴリーに『体験を通して感性を磨き、人間観、死生観、看護観を深める』が代表される。学生は臨地実習で病を持つ多くの人達と出会い、その人達の健康回復を願い役割を果たす専門職として、自らの看護観を深化させていくことを受講者は期待している。

4. 実習における実習指導者と教員の連携

今回は、受講者が学生に何を学んでほしいと思っているかの分析であり、同様に教員はそれについてどのように考えているのかは比較するものがなく、その対比はできない。しかし、村島³⁾は看護専門学校教師の研修会と、臨床指導者養成講座で、それぞれの受講者に対して「指導上大切にしていること」を自由記載として依頼した意味内容を分析した結果、その違いを指摘している。それによると、教師がもっとも大切にしていることは、「学生の意思の尊重」であり、学生を理解・共感したり、ケアや学習に対する願いを実現させたいと考えている。実習指導者の記述では、学習の促進のためにケアをともにし、学習を成功体験へ支援していこうという指導が強調されていたと述べている。教師は実習をカリキュラム全体の目標達成のプロセスと認識し、成果を先に置いているのに対して、指導者は、当該実習の目標達成に焦点をあてていた。この違いが指導方法に影響を

与えているというのである。指導方法のちがいに、学生が混乱し指導が困難な場合が起こることはよく指摘されることである。村島³⁾は、実習における教師と実習指導者はチームティーチングの関係であるととらえ、図1のように示している。それは、教員、実習指導者のお互いの強みを学習活動にうまく機能させることであるといえる。

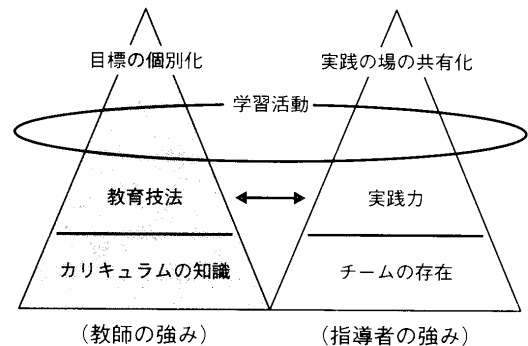


図1 教師と指導者のチームティーチング

(文献3. 村島さい子. 実習生の経験と向き合う臨床実習教育. 看護教育 42(2)p.95. 図1より引用)

実習指導者と教員の役割分担の在り方は重なることもあるが、当然職務の果たすべき役割に違いがあり、実習の指導における主な役割の取り方もそれぞれに違いがある。その役割分担の在り方の理解を助けるのが、中西⁴⁾の示す図2である。実習指導者と教員の両者がそれぞれ担うべき役割と、環境やその時々状況や、実習指導者、教員の能力に応じて、双方で話しあっていけばよい役割範囲を示している。学生の学習プロセスでは、個別具体的体験場面での学習はより実習指導者側が、抽象、体系化、統合の過程は教員側がより主体的に役割を果たすべきものであるといえる。いずれにしても実習が効果的に行われるためには、お互いの強みを生かして学生の学習過程を支援する役割を果たすことが重要であり、そのための役割調整の働きかけは教育の主体である側から出発すべきものであると考える。

V. おわりに

今回分析した「臨地実習で学生に学んでほしい事は何か」の内容は、受講者の学生の学習を支援する役割を積極的に果たしたいという思いが伝わってくるものであった。実習が授業として、教師・実習指導者と学生が、教材を媒体として効果

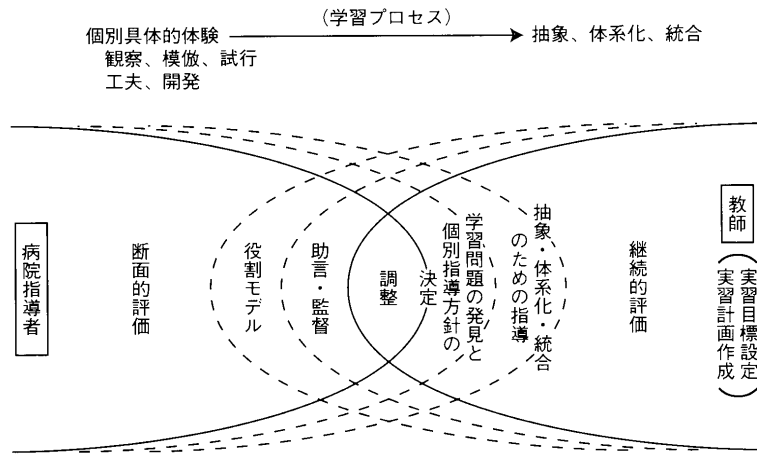


図2 臨床での学習における病院指導者、教師のかかわり

(文献4. 中西睦子「臨床教育論」p.298 図9. ゆみる出版. 1991より引用)

的に展開していく時、学習目標が達成されるものである。本学も開学3年目に入り、各看護領域の臨地実習が本格的に始まる。本講習会の受講者のように意欲的な実習指導者の方達とともに、学生の学習を支援する教員としての役割を改めて実感するものであった。今回の結果を今後の実習指導者との連携に役立てたい。

謝 辞

今回の研究に貴重なデータを提供いただきま

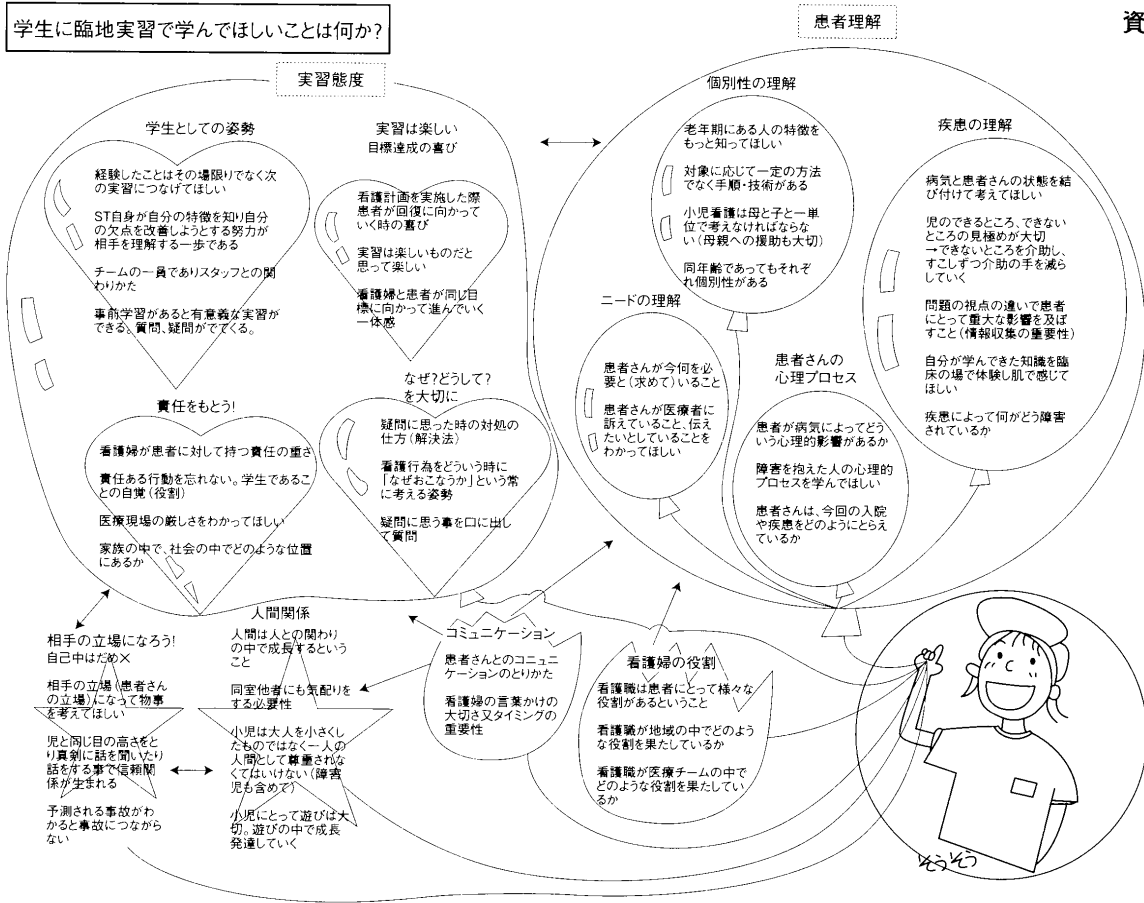
した平成12年度長崎県実習指導者講習会の受講者の皆様に、感謝いたします。

引用文献

- 1) 杉森みど里：看護教育論 医学書院 pp.242-243. 2000
- 2) 村島さい子：実習生の経験と向き合う臨床実習教育—より重要となる教師と実習指導者の協力 看護教育 Vol.42. No.2 p.94. 2001
- 3) 村島さい子：前掲2) p.95
- 4) 中西睦子：臨床教育論 ゆみる出版 p.298. 1991

グループワーク △△グループ

資料 2



グループワーク ○○グループ

資料 3

